

子育てと教育

～魅力ある芦屋の未来のために～

芦屋の教育・子育て

- 「教育のまち あしや」をめざして
 - ・ 「第3期芦屋市教育振興基本計画」を策定
 - ・ 就学前教育やICT教育などを掲げた計画に基づいて教育を進めている

芦屋の教育のめざす姿

芦屋の教育のめざす姿を実現するため、第3期計画策定の視点を踏まえ、今後5年間で学校園・家庭・地域及び行政が取り組むべき教育施策の5つの重点目標と、それぞれについての基本施策を示します。

めざす芦屋の教育

信頼される学校園と成熟した家庭・地域で育む豊かな人間力

めざす子ども像

芦屋で育てる “ 夢と志をもって自らの未来を切り拓く子どもの姿”



芦屋の教育・子育て

■ 令和5年8月に教育大綱を新たに作成

- ・ 児童生徒の「**ちようどの学び**」がキーワード
- ・ 子どもたちが主体的に関わる教育環境を目指す

芦屋市教育大綱 Ask what we can create for Ourselves, Ashiya, and the Globe.

Philosophy (どんな市民を目指すか?) : 自分と地球の未来を、探究と創造を通じて切り拓く市民

- 大きな変化に直面する社会でウェルビーイングに生きるためには、一人ひとりが未来を切り拓く力を育む必要がある。
- 未来は、自分で問題を発見し深める(探究)、自分なりの価値を創り出す(創造)の繰り返しによって切り拓かれる。
- とともに目指すのは、自分、芦屋、日本、そして地球の未来をも切り拓ける市民になることである。

そのために

Concept (どんな教育を目指すか?) : 「ちようどの学び」とそれを支える環境づくり

- 探究と創造の循環を加速するため、自分の特性や理解度等を踏まえた、公正で最適な「ちようどの学び」を実現する。
- 一人ひとりの未来を創る「学び」の支え手たる教師が、プロとしての誇りと実力を持ち仕事ができる環境を創る。
- 市民は、地域の一員として「学び」を支えると同時に、生涯「学び」続け、よりよい芦屋を共創する同志である。

そのために

Contents (具体的に何をするか?) : 児童生徒・教師・市民、それぞれにとっての「ちようどの学び」

児童生徒

【個別最適化】

教師の伴走とAI・ICT教育支援ツールの活用により、個性特性や興味関心・理解度等に応じて公正に個別最適化された「ちようどの学習内容・学び方」を実現

【対話・協働・インクルーシブ】

異なる個性や特性・背景を持つ仲間と対話し、協働的に学び合う環境を創造

【探究・STEAMS】

自らへの問いから始まる探究学習・STEAMS教育で学びへの意欲を引き出す

【主体性】

自ら学びをデザインすることで、「なぜ学ぶのか」に対する納得感を得る
校則改正をはじめ、自分たちの社会を自分たちで良くする成功体験を支援

【国際教養力】

国際文化住宅都市を担う市民に必須の言語力・文化力・情報リテラシー力向上

【誰ひとり残さない】

不登校や学習障がい・発達障がい等の学びづらさを抱えた児童生徒に寄り添う

教師

【児童生徒により向き合える環境】

児童生徒により向き合える環境を創るための、部活動指導の地域移行や
外部人材・ICT教育支援ツール等の活用による事務作業負担の整理・軽減

【主体性・専門性】

プロとしての実力・専門性向上のための主体的な探究・創造を支援

市民

【地域と学校の共創】

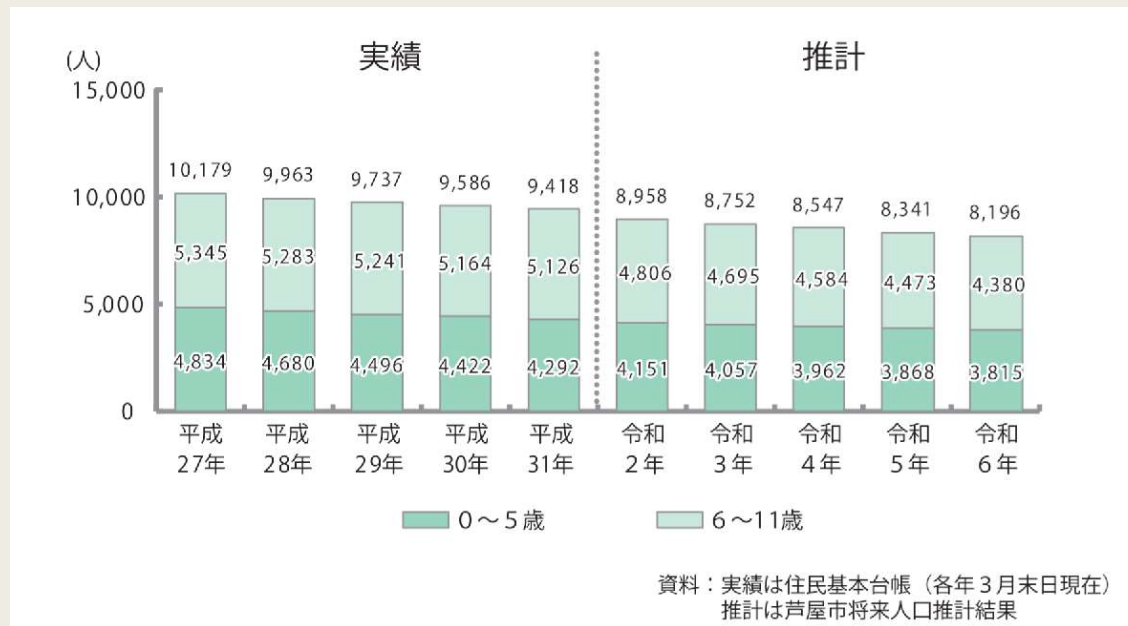
学校運営協議会を基盤とし、各地域でスポーツ文化活動・生涯学習を充実

【市民が主役の芦屋づくり】

芦屋の歴史文化や市民の経験を次世代に継承し、よりよい芦屋に向けて対話する
世代を超えた場・機会を設け、「探究」と「創造」を実践

芦屋の教育・子育て

- 親と子、双方に向けた子育てサービスの展開
 - ・ 第2期子育て未来応援プラン「あしや」を策定
 - ・ 認定こども園の設置や地域の支援拠点を拡充



今年度の議会の取り組み

- 放課後児童クラブ「ひまわり学級」の施設見学を実施
- インクルーシブ教育について講演会を実施
- 瀬戸市「子どもの権利条例について」視察
- 豊橋市「まちなか図書館について」視察
- 少人数学級や働き方改革等を推進する意見書を国へ提出
- 保育士の処遇改善に関する意見書を国へ提出



今年度、 教育・子育てが変わってきています

- 子ども医療費の無償化が拡大
- 打出教育文化センター・打出公園の一体改修工事



今年度、 教育・子育てが変わってきています

- 教育委員会の仕事の一部を市長の下での管理に移管
- 自然学校「丹波少年自然の家」事務組合の解散
- こども家庭・保健センターを設置

⇒愛称「あしふく」に決定



これからの課題は？ 例えば.....

- 不登校児童の増加（令和4年度は小学校73名、中学校126名）
- 放課後児童クラブの利用者増大と施設不足による過密化
- 配慮を要する児童の増加、年少人口（0～14歳）の減少

**課題を考え、意見交換しながら
これからの芦屋の子育て・教育のことを
みんなで考えましょう！**